

原著：高齢者を対象とした地域サロンの参加者における組織コミットメントと
その関連要因

出典：日本公衆衛生看護学会誌.

Vol.9,(1),2020 (https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjphn/9/1/9_18/_pdf)

高齢者が地域サロンへ継続して通うための要因を知っておこう！

緊急事態宣言の解除からしばらく時間が経ち、県外への移動規制も緩和されてきた現在、様々な地域の活動が再開し始めた頃かと思えます。しかし、長期間の自粛していた高齢者にとっては、**地域の集まりへ参加することに腰が重く感じる方も**いらっしゃるかと思えます。

そこで、今回はそのような高齢者を支援するために、地域サロンへ継続して通うための要点を抑えて適切な支援ができるような論文をご紹介します。

本研究は某大都市の社会福祉協議会に登録されており、高齢者を対象として活動している地域サロンの内、16か所が対象となり、対象者数は会員・役員を合わせて211名となりました。対象者の内訳として、全体の80.3%が女性、75歳以上が54.6%、役員35.7%でした。対象者の60.7%の方が2年以上も地域サロンに参加されていました。

結果の一部をまとめると、

- ①組織コミットメント(本研究では、「地域サロン参加者の地域サロンの組織並びに他の参加者と結びついていたという意思決定を含む心理的な状態」と定義)と関連した要因を調査した。
- ②参加期間が2年以上の対象者は、2年未満の方と比較して「自分は、この集団への忠誠心を割と持っている」「この集団の一員であるということを強く意識している」「この集団は、自分が所属する集団の中で、もっとも重要だと感じる集団のひとつだ」などの集団同一視コミットメントを示す値に有意差を認めた。
- ③集団同一視コミットメントは、参加者が集団の他のメンバーにどれだけ好意を持っているかを表す「成員凝集性」(OR : 2.69)と、参加者がどれだけ集団の目標や活動内容に満足しているかを表す「課題凝集性」(OR : 3.52)と年齢(OR : 5.05)に関連性を認めた。

【コメント (私見)】

高齢者の地域活動への参加を支援している理学療法士にとっては、復帰に対して腰が重い方に頭を悩ませている事かと思えます。そのような方に対して、サロン参加者との繋がりを強化する工夫や参加目的を明確にする支援などを行っていくことが、社会参加への一助となりうるかもしれません。